

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>学習指導</p> <p>理数教育重点校における思考力・判断力・表現力を養う授業への改善</p> <p>【B】</p>	<p>① 定期考査や模擬試験の結果分析を踏まえた教科会における課題と学力向上策の明確化</p> <p>② 主体的で対話的な深い学びを実現するための授業研究の実施</p> <p>③ 教員相互の授業参観の実施</p> <p>④ 生徒の科学的思考力を高め、疑問点を自ら解決する態度の涵養</p>	<p>① 教科主任・教科担任の分析会出席は定着したが、教科独自の分析による授業改善の方向性の明確化はできなかった。</p> <p>② アクティブラーニングの先進的な取組を行っている国立高2名を講師とした校内研修会に全員参加し、理解を深めた。</p> <p>③ 年3回相互授業参観期間を定め、一人が3回程度参観した。</p> <p>④ 理科や数学、英語科の教員の指導により東京サイエンスフェアで科学の甲子園に参加したり、ポスターセッション、英語による研究成果のプレゼンテーションを一部の生徒が行ったりした。</p>
<p>進路指導</p> <p>探究活動を通じたキャリア教育の充実による一段高い進路意識の保持</p> <p>【B】</p>	<p>① 生徒が主体的に進路探究活動を行うための進路行事の内容充実</p> <p>② 各種検定の実施や朝学習の充実など、スモールステップで進路意識を高める取組の充実</p> <p>③ 海外学校間交流推進校として姉妹校交流を進め、主体的に他者理解を深め</p>	<p>① 自前の探究テキストを活用した第1、2学年の総合的な探究の時間を計画的に行い、グループごとのテーマ研究を充実させた。特に第2学年は修学旅行先の北海道の企業・行政・NPO等とオンラインで交流し、現地が抱える課題を解決する方策を探究する取組を初めて行った。</p> <p>また、豊島セミナーに銚子電鉄の社長など様々な業界で働く方を呼んであきらめない心や粘り強さの大切さを説いてもらうとともに、第1学年で「みらい会議」を行って生徒の将来への夢の実現への道筋を描かせ、進路意識を揺さぶった。</p> <p>② 今年度も漢字検定・数学検定・文章検定の第1、2学年全員受検を実施したが、事前学習やその体制が教科や学年によってまちまちであった。朝学習は時差登校のまま復活し、各学年のHR担任が取り組んだ。</p> <p>③ 北京大学主催の日中高校生交流に第1学年生徒が選ばれ、ロボット工学や生命化学な</p>

	<p>る取組の充実</p>	<p>どのテーマで講義を受け、各校の発表や意見交換に臨むなど、北京の高校と交流を行った。コロナの影響で姉妹校交流などはうまく進まなかった。</p>
<p>生活指導</p> <p>全教員で統一した生活指導方針による校則遵守の組織的な指導と生徒の主体性の育成</p> <p>【B】</p>	<p>① あらゆる学校行事で実行委員公募を行うなど特別活動への生徒の主体的な取組の促進</p> <p>② 部活動顧問による生徒指導の強化、学習活動と両立できる活動計画の徹底</p> <p>③ 教育相談の手法を活用した学年と生活指導の連携による系統的な生徒指導の取組</p>	<p>① 前年度から生徒の委員を公募し、生徒が主体的に行事を企画運営し、VR体験スポーツのHADO・体育祭・文化祭・球技大会を学年ごとに実施し、講評や表彰も実行委員が自ら行うなど、形態を変えて行った。生徒は工夫して実行する意欲や態度を示した。</p> <p>② 部活動指導が思うに任せない状況ではあったが、顧問はよく生徒を指導し、特に吹奏楽部、バドミントン部などは好成績を上げた。グラウンドが使えないため、多くの部活動が遠方の外部施設を使用せざるを得ず、土曜日のスタディ・ラボの活用などによる学校総体としての学習活動との両立がうまくできなかった。個々の部活動では勉強会などの時間を設け両立を図っていた。</p> <p>③ 今年度から第1、2学期に2週間にわたる面談週間を実施し、HR担任と生徒の人間関係形成に大いに役立った。また、教育相談委員会が特別に配慮の必要な生徒の状況把握と対応の方策立案に大いに貢献したが、全教員での情報共有に課題が残る。</p>
<p>心身の健康づくり</p> <p>生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握する、個に応じた健康指導の充実</p> <p>【B】</p>	<p>① 学校への帰属感を高める生徒の心身の健康状態に即した教育相談の推進</p> <p>② オリンピック・パラリンピック教育を進めるための体力向上に向けた様々な取組</p>	<p>① 学校行事や特別活動、二者面談や学年集会などをうまく組み合わせ、スクールカウンセラーの相談日数を増やし、コロナ禍でも生徒の学校への帰属意識を保持させ、転学・退学者数を大幅に減らした。また、年5回の教育相談委員会で、生徒情報を共有した。</p> <p>② 体力テストの成績などはなかなか向上していないものの、体育の各活動や体育的行事に一生懸命取り組む生徒は相変わらず多く、体力向上を図る場面も姿勢も多くの場面で見られている。</p>

<p>募集・広報活動</p> <p>本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加</p> <p>【A】</p>	<p>① ホームページの内容充実、学校案内のレイアウトや内容の刷新</p> <p>② 入学者のいない学校や地区の上級学校講話や校外合同説明会等への参加</p>	<p>① コロナ対応のため、ホームページに音声付きの学校紹介ページを増やし、学校説明会を開かなくても個別相談で対応できる体制をつくった。11月からの学校見学会と個別相談会で2354名の来校者を得ることができた。</p> <p>② コロナの影響で、西東京市などでの上級学校講話や合同説明会の実施はなかったが、杉並区や中野区の全中学校で視聴する動画の提供を行うことができた。</p>
<p>学校経営・組織体制</p> <p>生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校経営の組織的な展開</p> <p>【A】</p>	<p>① 企画調整会議を中心とした分掌部会や学年会、教科会の連携の一層強化</p> <p>② 会議運営の効率化をはじめとした計画的な業務の進行管理</p> <p>③ ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す、業務が偏在しない、同僚性の高い職場づくり</p>	<p>① 企画調整会議中心で職員会議はなかなか開けなかったものの、学校の将来像について議論できるような雰囲気維持することはできた。また、9回の教科主任会で観点別評価の内容について検討し、来年度からの新学習指導要領に基づくカリキュラム実施の準備を整えた。</p> <p>② 企画調整会議の円滑な運営を図りながら、生徒の進路実績向上のための取組から教員の働き方改革まで、課題解決に向けた意見交換を活発に行うことができた。</p> <p>③ 分掌主任や部活動の主顧問に一部業務が偏った嫌いはあるものの、勤務時間外の残業者は減り、学年担任団の同僚性は高かった。また、複数の男性教員が育児休業やそれに準じる休暇を実際に取得している。</p>

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 家庭学習時間を第1学年は1.5時間、第2学年は2.5時間	○第1学年1.18時間、第2学年1.45時間
○ 国公立大学+難関私立大学+GMARCH合格者延べ人数100名	○72名
○ 大学入学共通テストにおける教科・科目ごとの平均点が全国平均の95%以上	○達成8科目、未達成9科目
○ 英語検定準2級以上取得30名、漢字検定準2級以上取得20名、数学検定2級以上10名	○英検172名、漢検90名、数検31名

○ 学校説明会参加者延べ人数7000名	○ 2354名
○ 推薦入試倍率4倍	○ 2.96倍
○ 一般入試倍率1.8倍	○ 1.96倍
○ 1日当たりのクラス平均遅刻者数0.1人	○ 0.2人
○ 部活動加入率100%（文化部兼部延べ人数で計算すると110%）	○ 91.0%

3 次年度に向けた課題と対応策

本校の目標である一段高い進路希望の実現と生徒の主体性の向上に向けて、学校改革を進めている。自己評価を【B】とした項目を中心に対処策を以下に示す。

学習指導では、今年度も相互授業参観や他校教員を講師とした授業研究等により、教員の授業力向上と進学研究校に見合った授業改善を目指したが十分とは言えない。今年度から理数教育重点校に指定されているので、理科や数学に興味をもてる行事を更に増やすとともに、学力向上へのインセンティブ形成に生かしていく。また、先進校視察や動画視聴も含めた研修の推進により、学校全体で進学研究校に見合った授業に改善していく。さらに、学年担任の教員自身が行う模試分析から本校の生徒の苦手分野を早期に発見し、教科として補習や講習で手当てをしていく。進路部から教科主任、教科主任から教科のラインを明確にして講習等を行っていく。

生徒の心身の健康づくりでは、教育相談委員会を中核として、生徒の発達や心身の状況や発達について特別支援教育コーディネーターを中心にスクールカウンセラーと連携しながら意見交換を行った。生徒対応等教育相談の方法が分かれば、実践意欲のある教員集団であるので、今年度はコロナの関係でかなわなかったが、来年度こそは専門家を講師とした研修を企画する。また、進路関係はもちろん、心身の健康づくりでも家庭と連携する必要から、三者面談や保護者との二者面談を全生徒について行い、校内で情報有していく。

また、【A】とした項目でも、本校の進学実績を上げるための課題は残っている。全教員のコンセンサスづくりなどを丁寧に行っていく。